

泉南走ろう会

No. 129
連絡先 泉南スポーツ社
0724-83-4653

時を大切に

会長 遠健三

人間は八時間寝、八時間仕事して、後の八時間をどう過ごすかによって、その人の人生生活に大いに影響を及ぼすといわれぬおりの事。

現在は「時短だ」といって八時間も仕事しなぐな。たかもしれませんが、せは正に「ゆとりくつろぎ」の時代となりました。週休二日制だ。今日のこの頃、パテニコ、ゴルフは大はやりです。それも良からうと思いますが、何もすることなく、家でくろごる寝ている人が多く、も事実です。相撲のテレビを見て、酒を飲む。これが唯一の楽しみだと言っておる人もおられます。

「光陰矢の如し」春と思えば夏が来て、秋冬があつて、一年が過ぎてしまいます。「時を大切に」人間にとって時間とは何だろうか。人間は何によって時間を意識するようになるのでしようか。日が昇り、そして沈んで夜が来る。四季の移り変わりによってだろうか。人間が時間を意識するのは誰れにも避けがたい「死」によってだろうか。もし死がなければ時間を知る必要もない。死によって

有限の時を意識する。私達は生の時間の意味を知り。

朝起きて顔を洗ひ、電車に乗って会社に行く。仕事が終われば、また電車に乗って帰って来て寝る。そして週休二日制だ。時短だのといつて家で何もすることなくゴロゴロする。

この様な生活をしていけば、人生に新発見も変化もない。時間9たつが早い。私達もナーにちて、有限の時を意識するのは、先の磯関紙にも掲げさせて頂きましたように、「栄光と挫折」にあるように、フルマラソンを四時間走って走れなくなった、何処の大会に行っても「最高年令」といわれるようになった時です。あ、もう年が、有限の時を意識する。

私達のランニングにおいて、たいがい年の順に記録が落ちております。フルも六甲も町石もそうであつたように、どんなにがんばった騒いで、もう年には勝てぬ、情けない。そこで一つでも若いうちに、今のうちに、機会があれば今度しようではなく、大会にチャレンジしたい。ま、う。よき思い出を作りましよう。

仕事でも趣味でも熱心に真剣に打ち込むことを重ねていけば、そこに必ず自分なりのなんらかの思いが生じて、ますます事に取組む熱心さ、真剣さ、その原動力を高め、明日も明後日も一年先、二年先も健康で有意義な人生を送るために「時を大切に」
初心忘れず、ランニングを続けましよう。



山口・萩往還マラニック大会 一五〇キロの部に参加して

牧野源泉

ついにやりました、タイムオーバーを。まばらな拍手をうけながら、制限時刻の夕方6時に5分遅刻してゴール（その瞬間の写真も撮ってもらい、完踏証ももらいましたが）。なんともバツのわるいものです。いやいや、そうもいつてはおれません。達会長は最長の二五〇キロの部に参加され、私より4時間も前にゴールされてしまいました。「一緒に写真を撮ろう」とそのまま今か今かと私の到着を待つて下さっていた思いやりに感謝せねばなりません。

二五〇キロの会長が悠々ゴールできて、一五〇キロの私が制限時刻に間に合わなかつたのは、なぜか。鷹揚な地図を頼りに広範な地域を首尾よく巡るには、頭脳の汎用性がものをいいます。結局ヘッドワークの差でありました。遠からず、巻土重来を期そうと思ひます。

それでもマア、私の道中記を聞いて下さい。参加した動機から始めよう。このよい季節に維新のロマンが漂う歴史の道をマラニックするのは、ゆとりが求められる今におさわしい。それに安いときているさらには、超」とつくものに挑戦してみたいとかねてより思つていた。

マラニックの部は二五〇、一五〇、一〇〇キロの三種目があり、それぞれに泊まつて行くフリーの部が併設されていた。昨年参加された達会長の体験記を参考に、私はフリーの一五〇キロを選んだ。程々の距離で景色を楽しみたかつたからである。次の二点も重要視した。第一は、故障なしに大会に臨むこ

と。これはうまくいった(?)。第二は、知らない土地での大胆な試み、役立つ情報を得ること。この点については、会長の体験談を三度読んだ。

5月3日朝8時、スタート。夕方5時頃宿泊地の影清洞に到着。大体イメージ通りに一日目は終わった。さわやかな5月の風を受けながら、サイクルロードを秋芳洞へ向かつて走り、そこから秋吉台に上り、雄大なカルスト台地をゆつくり通り抜け、数時下つてひとまず終わり。予想外といえば、スタート前の説明がアレッと思っただけおほかだつたことである。宿泊地はその時初めて知らされ、「地図を頼りに、皆で仲良く行つておくんなはれ」ということでした。

二日目、夜が白んでくるのを待つてスタート。夜を徹して走る一五〇キロの部の人には既に通過してしまつていた。涼しいうちに距離をかせがねばと速歩で萩の町へ急いだ。先行の何人かに追いつき追い抜き、8時前頃萩城に到着。休むまもなく、海岸線に沿つて遙かむこうに見える笠山に向かう。展望台に上つて、日本海と萩の町を一望。岬を一周して萩・山口往還道の入り口を目指す。

問題はここからである。經由地の松陰神社の位置を確かめるため、地図を広げてみるが、よく分からない。町の人に聞くと、「全然別方向だ」とか「タクシーでいったら」とか、さつぱり要領をえない。ウロウロしながら歩を進めていくうちに、前方にランナーを見いだした。後について行くと、アレレ、萩城に戻つてしまつた。何のことはない、一〇〇キロの人の往きのコースを辿つたのだつた。

係りの人の指示を頭にいれて後戻り、何とか往還

道に入れた。時計は午後2時になろうとしていた。約三〇キロを4時間で走らねばならない。大名行列が通つたという歴史の道を急ぎに急いだ。

最後の急な峠を上りきつて、ゴールまであと7時、一時間十五分で行けばよい。ヨシヨシと思つたのも束の間、紛らわしい路面の白線にどう行くのが正しいか悩まされる。またもやウロウロ、試行錯誤。時間が過ぎていく。どうにか往還道の道しるべをたよりに、山道を抜け出れた。民家の戸を叩いてゴールへの道を確認して、一気に走つた。あとどれぐらいの距離であつたかは分からなかつたけれど、途中で制限時刻の6時を知つた。



挑戦

萩往還三五〇キロマラソン
試走会に参加する

透健三

悔の残るレース展開であつた。今は体は満身創痍、心は疲労困憊である。なぜこんなことになつたのか。レースは午後六時スタートであるので、夜間九時間程走つた時、神道の段差がわからなくなったために転倒する。足腰、胸を打つ。そして足は豆、豆まありめである。

レース三五〇キロのうち、自分の名前、ゼッケン番号、タイムを記入するところ十ヶ所程あるが、そのうち三ヶ所はチェックポイントといつて関門であり、チェックするようにと、説明があつた。したが、そのオチ、チェックポイントを故意ではなかつたが、行きがかり上、またレースの流れとして、通過せずに来た。すなわちチェックポイントである。それがため、三五〇キロ走つてないというにはならないが、むしろ道が今からないため、あつちへ行き、二ツ子へ行き、愛賢、二五〇キロ以上走つたことになるが、関門を通過しなかつたというので、三五〇キロの完走の認定が頂けるかどうか、それがため、悔が残る、心から完走の実感は湧かない。ほとほと疲れたよ。また体も完走しておればこんなこと

とどういなんでもないが残念である。あちこち今も痛む。二五キロ完走の大魚を逸する。ともあれ今年は試走会ということであり、説明もちゃんとしていたので、こんなものか、来年は正式大会であるので頑張るよ。

さて、本題の「挑戦」に戻ろう。救往還の二五キロは必ず参加するを、昨年の一五キロは二十三時間五十五分七秒で完走できた。間寛平氏の二五キロスペルタスロンのテレビを見る。やて、うや、てる、足が豆だらけだ。八キロのタイムは私のタイムとそう変わらない。間氏と私の違いは私はあのように足に豆ができていない。私も二五キロやれるかも。伊勢まで七キロのウォーキング、また大阪京都一〇キロウォーキング好タリムにて完歩、こいどよしよし。これほどは良かったのですが、私は毎年四月頃になると体の何処かが悪い、以前は何んだかんだといつて入退院を繰り返した。最近でも四月は体の調子が悪い。今年は胃が痛い。町石のクロスカントリーでは胃を押さえて走った。

とてもではないが、救往還は駄目だ。行かないか「何度も繰り返す。家内から「うるさいな、優柔不断だ、あかんと思ったならば、止めた方が良く」と一喝される。ほな、どうしようとして四月二十二日、主催者に不参加の届出をしたため、その封筒を二十五日には投函せず、思案に思案を重ね、遂に意を決して、二十三日に投函する。

「水で終った、何も思うまい。こいどよしよし。だが気持ちが一辺に打ちのめされ、ふらとなる。

四月二十六日、走ろうかの例会日に救往還断念を会員の方に告げる。悶々の日を過ごす。三十日、何もする事がないから、竹の子を振る。あつ、しまった。目を突く。青一日、眼圧者に行く。午後八時、あかんとしてると、午後三時、牧野先生から電話「救往還は行かまじか」いや、私は取り止めた。行きませぬ、例年の時、皆に断念しましたと告げました」と返事する。

それから問題。待てよ、荷物はどうか、かかと前々からこいどよしよしと用意したものをパッキングしてある。断念してみる。惜しいなあ、でも仕方ない、午後六時、夕食を食べていると、また牧野先生から電話「救往還の二部でも返して下さるならば、もうさきで済ませます。もうよろしいです。あんなシャツ、また申込み金も前にも返してもらえなかつた人を知っていますから、あせらく、駄目でしょう。もうよろしいです」と電話を切る。

よてさて、行かない、午後八時主催者に「不参加としました」が、参加させてほしい。今からでも参加させて頂けませんか、また完走できないうちも分か



りませんかよろしいですか」と電話する。すると、主催者である会長が「いや、いいですよ。せう子五人程、比目より先にスタートさせてほしいとか、色々ですよ。遊びにいらっしやい」と返事があり、家内「救往還に行くぞ」「あんなに行きたがっていたのに、ほな行ってくるかな、例え大阪駅まで行って帰って来てもかまわない。行くだけ行って、あかんと思っただけは、帰って来たならば良い、二五キロ何かがうまいものでも食べてと二五キロ渡さぬよ。よし、よし、ほな駅に行くよ来るよ」

「新幹線の切符とて来るよ」百午前八時三十分乗車と決める。牧野先生に「私は行くことになった。明日午前八時三十分には新大阪乗車します」。牧野先生「では救でお会いしよう」二日午後六時スタート、ゴルフ地点に並ぶ。私は別に緊張もカクシヤも無い。長い距離をだらだらと走る歩みは、馳せているから、さて、こいどよしよし、二五キロを走らな

だ。皆より遅れると道が分からなくなると。それが困る、それだけである。牧野先生からスタート前の写真撮って頂き、頑張る。体に気をつけて送り、スタートする。

四月午後三時十五分、ゴールする。それから一五キロを走らした牧野先生を

ゴール地点で待つ。

私はゼンケンを外さず、牧野先生と山口でのゴール地点の劇的な写真裏をしようが
見えない。どうなったか、もう先にゴール
さゆたうであろうかと、午後六時まで待つ
が見えない。

私は荷物整理のため、スタート前の荷物
置場に向う。後で分たことであるが、
午後六時過ぎにゴールさゆたうな、無事
で良かった、完走を心から祝福します。

でも私は、チェンボが気になる。「はざり
説明せんから、コースをちと分るよきに
矢印をしろ」と言いたくなる。でもよく考
えて見ると、あんなものか、キチンとしたも
のであったならば、私のように、スピードの
ないものには、恐らく駄目でしょう。

来年は、こちらも気をつけ、慎重に走
るよ、来年は頑張るよ。

レースの展開、言語に絶する、わが国最
長の難コースについての様子を記したく思
いますか。

それは、ぼろぼろ例会日の時に言します。
また、難コースは何処のレースにもあるよ、
今回は「挑戦」、私の参加するまでの心動
様と心構え、そして、決断まで記しまし
た。

ビッグニュース

五月十六日、走ろう会々員でいらしゃる
青藤加寿子さんか、晴れてめでた
く御結婚されました。

末長くお幸せに



お知らせ

一、例会日 五月二十四日

小豆島マラソンに参加
のため、白まトレニング
とします。

一、備考

一、六月十四日、例会日、午前九時

新冢種河神社前広場に集
合。

コースは皆と相談して決める

一、当初六月十四日例会日に野死ハ
ーナ(焼肉)を予定してありま
したが、場所等、もう一度比
サと相談して決めねばなり
ませんので、六月十四日例会日
に走った後、野外ハーナの日
時、場所等、決めます。